

韋駄天



問、大河ドラマのオチ作の主人公は誰？
答、井伊直弼
意外でした。老伯取

下手ながら書き物をしていると、読み手の為というより書き手の為にやっていると思う時があります。おかげさまで一つの疑問が解決いたしました。それは、「ご馳走様」は食事の後の行為にも関わらずどうして走るといふ漢字が入るのか。これがずっと疑問でした。そして、今回ご紹介の韋駄天に答えがあったのです。

韋駄天は、もともとインドの神で、三大神の一、シヴァ神の子です。仏教に取り入れられ、南方をまもる増長天のもと八将の一人として数えられました。

韋駄天は足が速いというイメージがわきます。これは、仏舍利（お釈迦様の骨）を盗んだ足の速い夜叉を韋駄天が追いかけて取り戻したという伝説からきています。

また、お釈迦様のために韋駄天が方々を走り回り、食べ物を集めたという伝説から、「ご馳走」という言葉ができたそうです。

韋駄天のように働いた方がおられ食卓の上に食事がならんでいます、「ごちそうさま！」といって食事を終えたいものです。



こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



同じメンバーの集まる会でも、日々違う。一日たてば青年が大きく成長しているときがある。一期一会、是非大切にしたい言葉です。

平穏な日々であればこそ、忘れやすいのが一期一会という言葉ではないでしょうか。
一期一会は茶道の言葉ですが、元は「二期」と「一会」の仏教用語を合わせて成り立っています。
「二期」：生まれてから死ぬまでの一生
「一会」：法要などの集まり
この集まりは一生に一度のものであるから、主人も客も心を配り、真剣に参加しなさいという意です。
一期一会の意味自体は古くからあったのですが、「二期一会」と四字熟語として用いたのは、幕末の大老井伊直弼です。悪役のイメージの強い井伊直弼ですが、若い頃は、兄がいるので井伊家を継ぐ予定もなく隠遁生活を送っていました。その時に、茶道を深く学んだようです。

一期一会

